

館山市観光協会(上條長永会長)と南房総市観光協会(清宮信英会長)は、2市が共通課題の解決に連携して取り組む「館山市・南房総市定住

# 未来の南房総を考える

2月9日に、じゃらんリサーチセンターのセンター長「沢登次彦氏」をお迎えして、「地域の未来を創る、持続可能な観光戦略について」というテーマでとみうら・元気倶楽部を会場にご講演いただきました。

当日は、南房総・館山の観光関係者のみならず、行政関係者や商業界など幅広く一般の市民の方も参加し、100名を超える聴衆を前に、「観光の現状把握」から始まったお話を伺いました。(要約版を掲載いたします)

## 旅行のニーズの変化

長いコロナ禍の時期が過ぎ、今、賑いを取り戻そうとしている観光業界。昨年のデータから、今年、また近い未来を予測します。コロナ禍であったために、国内旅行に限った数値となつていてと考えています。2022年度は国内の宿泊旅行の実施率は44.2%。平均旅行回数、2.88です。

2000年初頭、20年ほど前は、65%程度あった国内宿泊旅行ですが、コロナ禍では、30%台に落ちこみましたが、上り傾向にはあります。すでに、昨年度で、平均宿泊数はコロナ以前にほぼ戻り1.8泊平均。旅の形態は、一人旅(約20%)や夫婦二人(約25%)の旅行が増えています。20年前は、全体の5%以上あった職場などの団体旅行は、1%程度と激減。これからも「お一人様」の旅が増える傾向にあると言われています。

## これからの旅行

データを踏まえた上で、これからの旅行についてのキーワードとしては、①「量から質」。これは好きなことにはお金をかけたい。体験や、こだわり、本物など旅行に行く理由を明確にする意識が高いケース。②「消費から投資」、新しい価値、新しい日常への価値探しの旅。③「旅先でのリコメンド重視」旅先での隙間時間体験、見学、お土産などは現地での情報で決めたい。④「短期から長期」仕事と旅行の境目が希薄に、またワーケーションなど。4つのポイントを挙げられました。

## 南房総・館山にとって

## 「持続可能な観光地戦略」とは?

今、日本は、世界から観光地として高い評価を受けています。世界経済フォーラムが公表するレポートによると、旅行・観光開発で117カ国のうち、日本が1位になっています。これ

自立圏」の形成協定(令和2年7月締結)をきっかけに、両市の観光協会で令和3年5月から協議を重ね、手を携えて観光振興に取り組んでいる。

は、交通インフラの充実や、自然・文化資源の魅力、安全性などが評価されてのこと。

人口減少に悩む我が国日本は、インバウンドによる外国人の来訪者を増やそうという国策があります。我が地域も人口減少まっただなかですが、地域外の方はすべて「インバウンド」です。中心となる首都圏からの来訪者をまず大切にしていきたいことが肝要です。

そして、観光戦略を実行していくためには、地域の覚悟や合意形成などの「目的面」を明確にすること、高付加価値化、DXの推進など「戦略」を進め、それを実行する経営組織、人材、財源など「基盤」を確かにする必要があります。

理想的なのは、持続して成長する観光産業であること。しかし、これが地域の成長なくして産業の成長はありません。地域と産業界が連携をとらなければならぬのです。

高付加価値化がゴールではありません。地域にとって良い仕事を生み出すこと、あこがれの職種として生まれ変わる、ことです。地域の価値が高まり、顧客満足度があり、産業に利益を還元し、意欲がさらに高まる。そういった好循環を生む産業界になる必要がある、とのこと。

## 国内宿泊旅行の同行形態

国内宿泊旅行の同行形態(単一回答/延べ宿泊旅行件数ベース)

コロナ影響による複数人数旅行の揺り戻し

|           | 一人旅  | 恋人との旅行 | 夫婦二人での旅行 | 小学生以下の子連れ家族旅行 | 中高生連れ家族旅行 | 親連れ家族旅行 | その他の家族旅行 | 友人との旅行 | 職場やサークルなど団体旅行 | その他 |
|-----------|------|--------|----------|---------------|-----------|---------|----------|--------|---------------|-----|
| (22年度) 全体 | 19.8 | 8.6    | 25.0     | 11.3          | 4.1       | 9.0     | 8.6      | 11.6   | 2.8           | 0.8 |
| (21年度) 全体 | 20.1 | 9.1    | 27.4     | 11.8          | 5.1       | 7.5     | 7.3      | 10.0   | 0.9           | 0.8 |
| (20年度) 全体 | 17.8 | 9.4    | 29.7     | 11.6          | 4.3       | 8.1     | 7.5      | 9.9    | 0.9           | 0.8 |
| (19年度) 全体 | 18.6 | 8.2    | 25.2     | 11.5          | 4.2       | 8.4     | 7.9      | 12.5   | 2.5           | 1.1 |
| (18年度) 全体 | 18.0 | 7.8    | 25.2     | 12.0          | 4.5       | 8.4     | 7.8      | 12.8   | 2.7           | 1.0 |
| (04年度) 全体 | 10.5 | 8.1    | 22.4     | 14.6          | 4.3       | 7.3     | 8.6      | 15.3   | 5.8           | 3.0 |

一方、一人旅を中心とした個人化の傾向は今後も継続する可能性が高い

## withコロナ, afterコロナから考えるキーワード

**<量から質>**  
好きなことにはお金をかけたい  
(体験・体感、こだわり・本物、ここにしかない価値...など旅行に行く理由を明確にしたい意識が高まる)

**<消費から投資>**  
今を楽しむから、未来につながる  
何かを獲得するために旅行する  
非日常の価値→新日常の価値  
(第二のふるさと、二拠点居住先、移住先探し)

**<旅先でのリコメンドが重要>**  
メインの目的は事前予約、隙間時間(食事・体験・施設見学・お土産など)は旅先で現地の良い情報を聞いて決めたい旅上手が増えてい

**<短期から長期>**  
仕事と旅行の境目が希薄に。  
ワーケーションの  
さらなる市場拡大へ

## 地域への愛着が地方活性の入り口になる

交流人口と関係人口との中間に「こころの故郷旅」が介在することで地方活性化に近づけることができる



<資料・出典:株式会社リクルート じゃらんリサーチセンターセンター長 沢登次彦氏>

## チャンスは「愛着人口」。



株式会社リクルート  
じゃらんリサーチセンターセンター長  
沢登次彦氏  
さわのほり つくひこ

じゃらんリサーチセンター(JRC)とは?  
JRCの使命:  
「変わる地域の、力になります。」  
じゃらんリサーチセンターは世の中が変わっても、地域が元気であり続け、いま以上に輝くために、守ること、変えることに伴っていきます。

観光客は「交流人口」と呼ばれ、体験型旅行やご当地の文化にふれあう方々をさします。これに、何度も訪れる我が地域を気に入ってくださった方々を「愛着人口」と呼び、「こころの故郷旅」として第二の故郷のような過ごし方をする何度もおいでになるリピーターの方々を大事にすることで、関係人口・定住人口につなげていくという考え方があります。

「愛着人口」を増やすためには、幸い、首都圏を後背地に持ち、車で90分程度でご当地に訪れることができる我が地域は、非常に恵まれた環境です。愛着を持って来られた方々に、季節の楽しみや地域文化を伝える機会など、さらにこの地への親しみを高めてもらう戦術が必要とも言えます。

課題は多くありますが、地域をあげて、観光関係者のみならず、「愛着を持つ地元の方々すべて」が地域課題である人口減少と向き合い、観光産業の質を高めていくことができれば...と結んでくれました。

『公式』南房総市  
YouTube  
観光協会ちゃんねる

公式Instagram  
enjoyboso

一般社団法人南房総市観光協会  
◆南房総市観光インフォメーションセンター  
〒299-2403 南房総市富浦町原岡89-3  
☎0470-28-5307

たてやまファンクラブ

公式Instagram  
tateyamatrip

一般社団法人館山市観光協会  
◆観光案内所(UR館山駅東口)  
〒294-0045 館山市北条1879-2  
☎0470-22-2000

南房総・館山  
共同で情報発信

LINEで  
友だちになろう!  
enjoy-boso

それぞれの会員を統合して、「南房総・館山のファン」に共同で情報発信。  
観光「LINE」を一本化!